

心の栄養剤No146 「小欲知足」

不平というのは不足の心から生まれます。不足の心を持つと心が貧乏になっていきます。「あれもない、これもない」「ああしてもらいたかった、こうしてもらいたかった」って。

「**小欲知足**」という言葉があります。小さな欲で足りていることを知ったら、私たちは毎日楽しく生きられると思います。

「**あれもない、これもない**」**と思って生きるのと、「これだけあれば充分。これだけあればいいじゃない**」**と思って生きるのとは、どっちが楽しい人生か、容易に想像がつくでしょう。**

昨年、茨城県に住んでいるTさんという31歳の男性から、「お寺で1日修行をさせてほしい」と電話が掛かってきました。

私の寺は九州ですから、いつもだったら「わざわざ九州まで来なくても、お近くのお寺で修行をしたらどうですか」と言っていたと思います。でもなぜかその時は、「いいですよ。いらっしゃい」と言ってしまったんですね。

よほど居心地が良かったのか、Tさんは1カ月間も修行されていきました。そして朝から晩まで働く中でこんな話をしてくれました。

Tさんは以前、100日かけてお遍路を回ったことがあったそうです。その道中で、会った人たちからおまんじゅうや果物、おにぎりをよくもらうようになりました。

宿がなくて困っている時に、「よかったらうちに泊まってください」と言ってもらえたり、お風呂を貸してもらえたり、本当にありがたいことをたくさんしてもらったそうです。

ある日、Tさんが寺を訪れるとすでに閉門していました。これではお参りができません。仕方ないので明日の朝一番にお参りしようと思い、Tさんはそのお寺の軒下に寝袋を広げました。

しばらくするとその寺のご住職が出てこられて、彼に向かってこう言いました。

「いい若者がこんなところで何をしているんだ！おまえたちのような若者がいるから日本はちっともよくなるんだ。人の情にすげずに生きていけ！」

叱られてTさんはそこを立ち退きました。悔しくて涙が出てきました。「何もあんなに言わなくても」と思ったそうです。でも彼はふと立ち止まって考え直しました。

「あれはお不動様が教えてくださったのではないかと。」

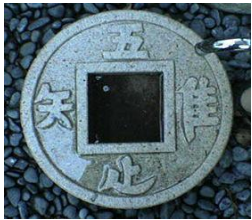
自分は人の親切がいつの間にか当たり前になっていた。人から物をもらう時、初めは「ありがたい、ありがたい」と思っていた。でもいつの間にか、もらえないと「どうしてくれないのか」と思うようになった。

宿に泊めさせてもらえる時も、最初はとても嬉しかった。でもいつの間にか、寝袋で寝なくてはいけない日は、「どうして今日は野宿なのだろう」と不足の気持ちが出るようになった。

門が閉まっていると、「もうちょっと開けてくれてたらよかったのに」と思うようになった。そんな私の不平の心を、お不動様がご住職の口を借って教えてくれたのではないかと。

Ｔさんは次の日の朝、そのお寺にお参りし、ご住職に「ありがとうございました」とお礼を言って帰られたそうです。

何か自分に嫌な事を言う人がいたら、「ああ、言ってくれてありがとうございます」と思える自分でいたいものですね。



左は京都龍安寺のつくばいに「吾唯足知」の4文字が写真のような感じで刻まれています。

この「われ、ただ足るを知る」という言葉をどう感じますか？



足るを知り～現状の生活をこんなにあるじゃないか、充分だ！
と生きて「ありがたい！」という感謝の気持ちが自然と出てくる。そして、その感謝の気持ちを持って生きていくというのが幸福人生のキーポイントになる気がします。
私も「吾唯足知」を常に感じれるように生きよう！！



「海」のなかに
住む魚は
「海」の姿が
わからない。
「幸」のなかに
住む人は
「幸」の姿が
わからない。
「日常」こそが
「幸」の海。